

静岡県漁業協同組合連合会  
1114 静岡市追手町 9-18  
16.10.15 054-254-6011  
編集・発行 = 指導部漁政課

## 1. 台風22号伊豆半島中心に本県沿岸に大きなつめ跡を残す

去る10月9日午後4時ごろ、非常に強い台風22号(上陸時の中心気圧:950hPa)が東日本では観測史上最大級の勢力で伊豆半島を直撃し、県内各地で記録的な暴風(最大瞬間風速:石廊崎=67.6㍓、網代=63.3㍓、ともに観測史上最高を記録)、広い範囲で大雨となり漁業関係への被害が発生しました。

本会では各漁協への聞き取り調査を行い、被害状況をまとめましたのでお知らせします。

初島: 停電により蓄養所のエビが半数以上へい死。漁船が強風で飛ばされた。網代港: 製氷工場が潮に当たり使用不可能となる。軽油タンクの計量器が破損。漁船4隻が転覆。伊東市: 漁具倉庫の屋根が飛んだ。陸揚げ中の漁船が横転。蓄養所の屋根がめくれた。宇佐美地区は新聞・テレビでも報道されているように、被害は大きい。

稲取: 製氷施設、天草倉庫や一部の施設で屋根がめくれたほか、雨戸が飛ぶ被害が出た。漁船が強風にあおられ一部破損。下田市: 天草倉庫の屋根が飛んだ。天草の一部が濡れた。

南伊豆町: 天草倉庫の屋根が飛んだ。漁船7~8隻が横転。田子: ダイビングに使用する船舶が転覆。土肥: 釣り堀の浮き桟橋破損。天草の一部が濡れた。

戸田: 流草木が港内に流入。内浦: 養殖魚への被害約427,500尾(タイ88,000尾、ハマチ9,500尾、マアジ270,000尾、マダイ種苗10,000尾、マアジ種苗50,000尾)で、河川から流れてきた泥水による酸欠によるへい死と、養殖生簀4基が沈没して養殖魚が流失。

相良町: 冷蔵庫が漏電し使用できない。地頭方: 漁船1隻が転覆、また1隻が岸壁に乗り上げた。御前崎: 漁船4隻が岸壁に当たり一部破損。

また、榛南地域では、港内に流草木が流入する被害が続出し、地頭方の港内ではダンブカー10台分におよぶ被害がでました。

内水面養殖組合の富士養鱒では、組合員の従業員が池を巡回中に川に転落して死亡したほか、焼津養鰻、丸榛吉田うなぎでは、組合員の養鰻場のビニールハウスが破れるなどの被害がでました。

被害に遭われた関係組合及び組合員には、謹んでお見舞い申し上げます。

## 2. 2004年度(第19回)漁協運動功労者42人が決定

JF全漁連ではこのほど、「漁協運動功労者表彰審査委員会」を開催し、2004年度(第19回)の漁協運動功労者を決定しました。

今年度の受章者は、都道府県JF漁連・JF信漁連会長等が推薦した40人とJF全漁連会長推薦の2人の計42人です。

本県からは、先に本会並びに県信漁連より推薦した藤井 豊氏(前安良里漁協組合長)が多年に亘り漁協運営を通じ、ダイビングや漁港の多目的利用による村営マリナーの運営委託に取り組み、地域漁業振興と漁協の事業・組織の強化充実に尽力する一方、漁協系統組織の育成・強化に貢献した功績が認められ受賞が決まりました。

なお、表彰式、祝賀会は11月19日(火)東京・虎ノ門パストラルで行なわれます。

ここに受賞を心よりお喜び申し上げるとともに、今後の一層のご活躍をご期待申し上げます。

## 3. 国土交通省平成17年度事業 防災危機管理国家戦略の策定に着手

国土交通省河川局では、大規模な水害や津波に関する国家危機管理戦略の策定に取り組めます。

大規模水害についての危機管理戦略の策定は、社会経済全体をとらえた被害の影響を想定して公表します。同時に、被害減少対策として、ハード・ソフトが一体となった整備を戦略的・重点的に実施します。

河川の氾濫対策として、国・地方公共団体・指定公共機関などによる広域的な応援体制などに関する総合的な危機管理の活動要領と行動計画を策定するとともに、地図や画像を用いて国民に分かりやすい情報提供を行なうことを計画しています。

さらに、津波発生時に人命を最優先に防護する危機管理対策として、地方が作成する津波防災対策計画に基づいて実施される海岸の全施設の機能確保、水門などの自動化、遠隔操作化、海岸保全施設の耐震性調査、津波ハザードマップ作成などに対して、関係省庁が連携して助成する制度も創設します。

また、港湾局では津波・高潮防災対策を拡充、ITを活用した津波・高潮防災ステーションによる海岸防災機能の高度化に取り組めます。このほか、海岸災害から災害弱者を防護するとともに、安全かつ安心な生活基盤の確保や緩傾斜堤などの整備を進めていく方針です。

## 4. ワカメやコンブに肥満抑える効果

北海道大学、理研ビタミンの研究グループは、ワカメやコンブに含まれる成分(フコキサンチン)に、動物の代謝を活発にし、脂肪の蓄積を抑える肥満抑制効果があることを確認して詳しいメカニズムの解明をしています。

実験はマウスを使い、ワカメの脂質を餌に混ぜ、体重変化を調べました。餌の中に大豆油7%を入れて3週間飼育したところ、20%弱だったマウスの体重が平均39.7%になったのに対し、大豆油5%、ワカメの脂質2%を混ぜた場合は平均34%となり、約14%体重が少なかった。これは、脂肪組織の重さに差が出たとしており、ワカメの脂質が体内に吸収した脂肪分を蓄積するのを抑えると同時に、細胞中の脂肪の燃焼を助ける効果があったとみられています。

また、ワカメの脂質に微量含まれる成分、フコキサンチンを脂肪細胞に添加する細胞実験では、油の分解を促す遺伝子の働き具合が通常より増加しました。フコキサンチンが脂肪細胞中の脂肪を燃やし、代謝を強めている可能性が高いことも分かりました。研究グループは、ワカメの脂質の機能を応用できれば、脂肪を効率的に燃やして肥満を防ぎ、病気予防にもつながる可能性があるとしています。

## 5. 諸会議・日程(10月19日(火)~11月1日(月))

- 既報分省略 -

10月28日(木) 県漁業信用基金協会 = 臨時総会・理事会・保証審査委員会 (県水産会館)  
10月31日(日) 県漁連 = 口坂本の森活動 (静岡市井川)